

私たちは会主さまの教えを知らず知らずのうちに、自分の都合で選んでしまっています。面倒くさい、つらいという部分を回避し、自分が好む修行をしてしまいがちで、人間は楽をしたい、楽しんで幸せになりたいという根性を持っています。

これも人間の「業障」の一つだと思います。

この業障は、生まれた時から持っているのです。

また、たとえば頭が痛い、どこか苦しい時に、お経を上げれば治るという人も結構いますが、奇跡はそういうものではありません。頭が痛かったら病院に行くべきであって、薬も飲むべきです。

病院が好きな人は、あまりいないと思います。病院に行きたくなかったり、奇跡的な体験を得たいがためにお経で解決しようとする。病気をするということは、前世を含め、自分の今日までの懺悔の一つとして起きることがあるので、楽をしては治らないのです。

会主さまは、「具合が悪かったら病院へ行きなさいよ」と、ご指導くださりました。信者さんに伝えるためにもわざわざ私を病室に呼び、会主さまは「病院に行ったことを隠さず信者に伝えてくれ」と、おっしゃいました。これは、最後のご指導の一つでもあります。

私たちは楽をしたいから病院に行かない。会主さまが病院に行きなさいとおっしゃっているのに、自分勝手に、今までやりもしないお経を上げたり、その時だけのご利益のためのお導きをしたり。それで治るわけがありません。何とかこの教えを楽しんで、自分の望み通りにしてもらいたいと思ってはいけません。

何度も言うようですが、朝お経を上げることは大変です。

なぜ大変かという、自分たちが大変と思う心を作ってしまったからです。心の良い方、心の綺麗な方はお経を「苦」とは思わない。私達が、お経を苦と思うのは、前世から今世において悪行をして、懺悔を作ってきたから楽をしたいなと思ってしまうからです。

お経を上げることが苦になる、嫌だなと思うというのは、私達は、基本を忘れているからです。誰のせいでもありません。

業障の深い人間ほど、お経を上げたくないと思ってしまう。

お導きもそうです。

導きをめんどくさいと思うのは、私たちが今日まで悪いことをしてきた証なのです。それを変えるためにも、乗り越えなければいけないのです。だからお導きをするのです。

昔、会主さまが「天使と悪魔」を例えられました。

私たちの心の中で、お経を上げなさいよと、天使が言うのだけれど、悪魔が上げなくたって1日ぐらい大丈夫だよ。次の日、2回上げなさいよと。2回上げても意味がないのですが、都合のいいことを言うのです。そして、どんどん悪魔が成長する。

すると、天使が段々と小さくなるのです。悪い心が増えると良い心が減るのです。それは、心は二つではなく、一つだからです。

会主さま、大導師さまはよく「踏ん張ってお経を上げなさい。踏ん張って導きをしなさい」と。

下半期、楽をせず自ら進んで会主さまの教えを信じ、ご修行をお願い致します。